



2020年1月30日

各位

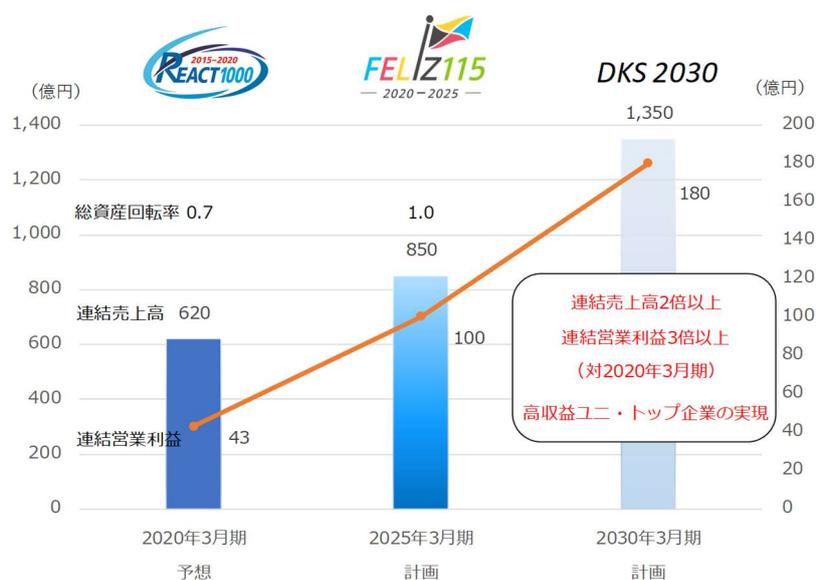
会社名 第一工業製薬株式会社  
代表者名 代表取締役会長兼社長 坂本 隆司  
(コード番号 4461 東証一部)  
問合せ先 取締役 総合企画本部長 山路 直貴  
(TEL 075-323-5951)

当社グループは、2025年3月期を最終年度とする5カ年の新中期経営計画「FELIZ 115」(以下、新中計「FELIZ 115」)を策定しましたので、お知らせいたします。

## 1. 新中計「FELIZ 115」の位置付け

新中計「FELIZ 115」は、2030年の社会環境を見据え、来る100年に存続する変革実行を骨子としています。世界的に不確実性は高まりますが、米国を軸に経済は安定して成長すると見ました。当社の社是、「産業を通じて、国家・社会に貢献する」は、永遠です。企業価値を高め、連結売上高1,000億円を確実にする歩みの新中計と位置付けています。2030年に目指す企業像を視野に、SDGsから選んだ5つの目標に注力します。

### <中長期ロードマップ>



## 2. 新中計「FELIZ 115」の概要

＜フェリス イチイチゴ＞



◇FELIZ：幸福の意味を持つスペイン語。全てのステークホルダーに幸福を与える企業でありたいことから「FELIZ」としました。FELIZを頭文字とする英単語で、本計画の5つのテーマを掲げます。

F=FUTURE（未来）  
E=ENVIRONMENT（環境）  
L=LIFE（生命）  
I=INNOVATION（革新）  
Z=Z・FLAG（挑戦）

◇115：本計画の最終年の2025年に迎える115周年に向けた計画を表しています。

### （1）基本方針

- ①2030年の業績は、アクチャル（現存）、ネクスト（周辺）、ドリーム（新規）が各1／3となる事業構成を目指します。新中計では、アクチャルの質的充実、ネクストの拡大増強、ドリームの開発・育成を図ります。
- ②計画的設備投資の結果である総資産を最大活用し、年間売上高に匹敵する総資産回転率1.0を目標とします。製品別管理と並行して、顧客別のマーケティングを強化します。
- ③営業、研究、生産、管理の本部制を敷き、経営資源の最適配分を行います。貢献に報いる業績評価体系により、社員幸福度経営を継続します。企業を取り巻く4つのステークホルダーの期待に応え、企業価値を高めます。

＜FELIZマトリクス＞

|                           | 社員          | 株主              | 顧客        | 社会    |
|---------------------------|-------------|-----------------|-----------|-------|
| <b>F</b> (FUTURE) 未来      | 自分で創る       | PBR=<br>ROE×PER | 互恵パートナー   | 人かAIか |
| <b>E</b> (ENVIRONMENT) 環境 | 貢献対応の<br>分配 | ESG指数           | C to Bの物流 | 適者生存  |
| <b>L</b> (LIFE) 生命        | 健康第一        | 長寿銘柄            | ヘルス・ケア    | 人生百歳  |
| <b>I</b> (INNOVATION) 革新  | 電光石火        | 時価総額<br>500億円以上 | 販売新モデル    | 5Gライフ |
| <b>Z</b> (Z・FLAG) 挑戦      | 行動に変化を      | 最高益更新           | 開発志向      | 幸福時代  |

## (2) 行動計画

- ①SDGsの5目標、ESG指数を設定し、工業用薬剤業界の首位を維持します。
- ②電子・情報、環境・エネルギー分野での収益拡大と、ライフサイエンス分野での事業育成のために経営資源を集中投入します。
- ③マーケティング戦略の抜本的変革により事業化成功率を高め、開発の期間を短縮します。

## (3) 重点施策

- ①貢献しない事業からの撤退を、初年度、二年度に実施します。
- ②霞工場ほか、先行投資した事業の早期刈り取りを行います。
- ③業績評価・報酬制度の改定を行い、貢献に応える体制を整えます。

## (4) 定量目標

| (連結：億円)   | 2020年3月期 予想 | 2025年3月期 目標値 |
|-----------|-------------|--------------|
| 売上高       | 620         | 850          |
| 営業利益      | 43          | 100          |
| 営業利益率     | 6.9%        | 11.7%        |
| 総資産       | 810         | 920 (予想)     |
| 総資産回転率    | 0.7         | 1.0          |
| 設備投資額     | 60          | 120 (5年累計)   |
| 売上高研究開発比率 | 4.5%        | 5.0%         |
| ROE       | 7%          | 10%以上        |

## 3. 説明等

- (1) 売上高、総資産共に増減のない業績低迷の期間が約30年間続きました。21世紀から体質改善に取り組み、2008年9月のリーマンショックが底となりました。四日市合成社の完全子会社化、新工場用地購入、新設備着工に取り組みました。現計画初めに建設した新工場の製造品収益が全体の5割を占めるに至りました。
- (2) 現計画で「REACTマトリクス」として掲げた4つのステークホルダーとの関係を示す20項目のスローガンは、全て着手しました。新中計の初年度、二年度で不採算事業の改善、また、撤退を行い、三、四、五年度に投下資金の回収を高めROICの向上に努めます。次の5年間に未来づくりの幸福度経営を実践します。

以上

※新中計の詳細については、別途、説明の機会を設ける予定です。